

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和 8年 4月 27日

事業所名 平谷こども発達クリニック岡山事業

所 はくくみ

	チェック項目	はい	いいえ	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			室内外の環境に恵まれており、多彩な集団および個別活動が可能である。	
	2 職員の配置数は適切である	○			多彩な集団活動に加えて、必要な個別対応ができる人員配置をしている。	
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○			エレベーターが設置され、車椅子利用者に対応した施設設備になっている。	
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している		○			法人全体の運営会議等で共通理解を図り、各事業所毎に職員全体が取り組む。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○				
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			法人全体のホームページが新しくなり、それに掲載	
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○			大学教官等の外部評価者に、自由に発言していただいている。
適切な支援の提供	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			法人全体で毎週木曜日に勉強会を開催し、事業所毎に伝達をしている。	
	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○			保護者のニーズと子どもをきめ細かく観察し、ニーズの把握に努めている。	
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している		○			クリニックで実施しているさまざまなアセスメントの結果を保護者了解の上共有している。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	○			職員間で日常的に話し合い立案している。	
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			毎月、いろいろなメニューを用意している。	
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○			長期休業日には、2コマの活動を用意している。	
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○			集団活動に参加できない子どもには個別活動を提供している。	
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○			事前に打ち合わせをし、役割分担を決めている。	
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○			毎回、支援内容を記録し、情報共有するように心がけている。	
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			毎回の記録を、できるだけデータ化し情報共有を図ろうとしている。	
関係機関や保護者との連携	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○			6か月毎に、見直し機会を設けている。	
	19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	○			5領域にわたり実施できるような活動を組み合わせている。	
	20 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			児発管と担当者が出席するようになっている。	
	21 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	○			必要に応じ、学校の担任等と送迎時などに情報交換を行うようになっている。	
	22 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○			看護師を配置し主治医からの意見書をもとに対応している。	
	23 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○			必要に応じて、移行支援の機会を設けている。	
	24 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供している	○			特別支援学校での卒業前の移行支援会議に出席	
	25 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			必要に応じて実施している。	
	26 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○			多様な障害の子や通常学級に在籍する児童とも交流している。
	27 （地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	○			協議会の委員から情報伝達がある。	
保護者への説明責任等	28 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○			連絡帳の他、本人の活動時の写真を提供している。	
	29 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○			クリニックと連携し、必要なら相談できるよう図っている。	
	30 運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			できるだけ丁寧に説明している。	
	31 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			随時実施している。	
	32 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○			父母の会の組織はないが、話し合える機会を提供し、お迎え時に保護者同士が話し合えるよう図っている。
	33 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○			苦情対応の窓口を設け、目につきやすいところに掲示している。	
	34 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○			それぞれの活動写真を掲示し、それをファイルしている。	
	35 個人情報に十分注意している	○			取り扱いには十分配慮している。	
	36 障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			視覚支援など分かりやすい伝達手段を考慮している。	
	37 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○			毎年、バラ祭りを開催し地域住民がバラ園を地域に開放している。	
非常時等の対応	38 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○			マニュアルを策定している。	
	39 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			長期休業日を利用して避難訓練を実施した。	
	40 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			随時実施している。	
	41 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○			身体拘束委員会を開催すると共に、重要事項説明書に記載し周知を図っている。	
	42 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○			該当者は現在はいないが、共通理解を図るようにしている。	
43 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○			毎回事案が生じた時は、報告を前に回覧し周知を図っている。まだ事例は少ない。		